

# 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付：2024年5月27日

事業ID：2024007997

事業名：若年層が献血・骨髄バンクドナー登録の正しい知識を持ち、自ら行動し具現化出来る 仕組みの構築

団体名：一般社団法人SNOWBANK

代表者名：荒井 善正

TEL：080-5410-4879

事業完了日：2024年5月20日



## ■ 契約時

事業費総額	:	23,630,000 円
自己負担額	:	7,330,000 円
助成金額	:	16,300,000 円

※ 箇所は「収支計算書」より自動転記

## ■ 事業完了時

事業費総額	:	25,487,405 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	9,187,405 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	16,300,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1. 事業内容

助成契約書記載の事業内容（予定）と、事業完了時の事業内容（実績）を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

### ■ 事業内容1

#### (1) 助成契約書記載の事業内容（予定）

1. THE BANKの開催  
(1) 時期：2024年3月  
(2) 場所：GOLILLA HOLL OSAKA  
(3) 内容：献血を働きかける音楽イベント  
参加者数：1,000人 献血：300人



#### (2) 事業完了時の事業内容（実績）

1. THE BANKの開催  
(1) 時期：2024年3月20日  
(2) 場所：GOLILLA HOLL OSAKA  
(3) 内容：献血を働きかける音楽イベント  
参加者数：505人 献血：66人  
骨髄ドナー登録：28名

#### (3) 成功したこととその要因

予約アプリを導入するなどして献血目標数を大きく超えることが出来た。

#### (4) 失敗したこととその要因

入場者数が目標を下回ってしまった。

#### (5) 事業内容詳細

別途報告書を添付

## ■事業内容2

### (1) 契約時の事業内容

2. 「献血・骨髄バンク副教材」の製作配布  
(1) 時期：2023年4月～3月  
(2) 場所：全国の学校50校  
(3) 内容：献血・骨髄バンクの副教材を作成し全国の学校50校に配布して正しい知識を学んでもらう。  
製作打合せ：5月日本赤十字社・日本骨髄バンクと連携し内容について打合せ  
製本：7月製造開始1万部  
募集開始：8月～11月全国の学校より募集を開始  
配布開始：12月 各学校へ配布開始



### (2) 事業内容の実施(完了)状況

2. 「献血・骨髄バンク副教材」の製作配布  
(1) 時期：2024年1月～3月  
(2) 場所：全国の学校40校  
(3) 内容：献血・骨髄バンクの副教材を作成し全国の学校40校に合計10,010部を配布市道徳の授業で使用していただいた。

### (3) 成功したこととその要因

予定の部数10,000部を超える配布が出来た。

### (4) 失敗したこととその要因

50校に配布する予定が40校になった。製本した部数が足りなかった。

### (5) 事業内容詳細

## ■事業内容3

### (1) 契約時の事業内容

3. SNOWBANK献血プロジェクト  
(1) 時期：2023年4月～3月  
(2) 場所：全国の献血ルーム  
(3) 内容：音楽アーティストやアスリートと連携し様々な業界のファンから継続的な献血者獲得する  
  
4. かたりべプロジェクト  
(1) 時期：2023年4月～3月  
(2) 場所：全国の学校・企業  
(3) 内容：全国の学校・企業で体験談を講演し、献血・骨髄ドナー登録の必要性を伝えます。



### (2) 事業内容の実施(完了)状況

3. SNOWBANK献血プロジェクト  
(1) 時期：2023年4月～3月  
(2) 場所：全国の献血ルーム  
(3) 内容：音楽アーティストやアスリートと連携し様々な業界のファンから継続的な献血者獲得する  
  
4. かたりべプロジェクト  
(1) 時期：2023年4月～3月  
(2) 場所：全国の学校・企業  
(3) 内容：全国の学校・企業で体験談を講演し、献血・骨髄ドナー登録の必要性を伝えます。

### (3) 成功したこととその要因

3. SNOWBANK献血プロジェクト  
献血901名、骨髄ドナー登録85名を獲得出来た

### (4) 失敗したこととその要因

### (5) 事業内容詳細

3. SNOWBANK献血プロジェクト  
献血901名、骨髄ドナー登録85名獲得  
  
4. かたりべプロジェクト

## ■事業内容4

### (1) 契約時の事業内容

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023  
(1) 時期：2023年11月11日～12日  
(2) 場所：代々木公園  
(3) 内容：献血の必要性を伝えるトーク、雪広場遊び、音楽ライブ、献血バスによる献血併行型骨髄ド



### (2) 事業内容の実施(完了)状況

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023  
(1) 時期：2023年11月11日～12日  
(2) 場所：代々木公園  
(3) 内容：献血の必要性を伝えるトーク、雪広場遊び、音楽ライブ、献血バスによる献血併行型骨髄ド

ナー登録会を開催

- 6. 骨髄バンク登録説明員養成
- (1) 時期：2023年4月～3月
- (2) 場所：学生献血サークル
- (3) 内容：各地の献血サークル参加者に向けたオン



ナー登録会を開催

- 6. 骨髄バンク登録説明員養成
- (1) 時期：2023年4月～3月
- (2) 場所：学生献血サークル
- (3) 内容：各地の献血サークル参加者に向けたオン

(3) 成功したこととその要因

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023  
雨の中献血に関しては目標を大きく超える結果を残せた

(4) 失敗したこととその要因

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023  
骨髄バンクドナー登録の目標が達成出来なかった。来年はより新規の来場者を増やせるようなコンテンツを加えて行く

(5) 事業内容詳細

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023  
別途報告書を添付

6. 骨髄バンク登録説明員養成

2. 契約時事業目標の達成状況：

(1) 助成契約書記載の目標

【目標】

日本の少子化人口減少が進む中、献血の量が激減しています。また骨髄バンクドナーの数も現在約54万人いますが55歳定年制度があるため、15年後には30万人を超える登録者が登録抹消されます。その割合は現在登録者数の約60%に及びます。そんな事態を迎える前に若年層である10代～30代の登録者数増加させなくてはなりません。日本骨髄バンクや日本赤十字社だけでは若年者層にアプローチを行うことが出来ていません。更に全国の大学等には200を超える献血サークルがありますが、そのほとんどが日赤の献血キャンペーンの際のボランティアを行うなどにとどまり、自ら行動し新たな仕組みづくりや継続的な活動などの活性化には繋がっていないのが現状です。そこで一般社団法人SNOWBANKは下記のプロジェクトを展開し若年層が自ら行動しやすい環境を創り社会課題を解決します。

1. THE BANKの開催

- (1) 献血参加者 1,000名

(2) 目標の達成状況 [700文字以内]

入力文字数	290	文字数チェック	OK
1. THE BANKの開催			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 献血参加者 505名</li> <li>(2) 献血・骨髄バンクドナー登録数：28名 献血者数66名</li> </ul>			
2. 副教材プロジェクト			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 配布学校数 40校</li> <li>(4) 配布部数 10,010部</li> </ul>			
3. SNOWBANK献血プロジェクト			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 献血実施数 901名 骨髄ドナー登録数85名</li> </ul>			
4. かたりべプロジェクト			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 講演会参加者数 約1,880名</li> </ul>			
5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2023			

### 3. 事業実施によって得られた成果

昨年同様に東京雪祭では専門学校2校に授業として運営に関わってもらうことにより10代の生徒さん達に必要性を感じてもらえた。天候が悪い中での開催にも関わらず献血に関しては目標達成出来た事から活動が世の中に認知されて来た事を感じることが出来ました。SNOWBANK献血プロジェクトは徐々に定着して来ており期間中以外や実施されていない献血ルームでの献血を行なったSNS発信も見る事が出来て定着して来た。3回目の開催のTHE BANKも徐々に認知されつつあり今年はお出演者の協力も多数得られて他業界にも認知が広がり始めた。今後もこの事業を伸ばして行き音楽業界での認知も広げ新規獲得を目指したい。

### 4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

SNOWBANKの活動によってどれだけの効果が出ているかを定量化することが難しかった。今後は日本赤十字社の献血アプリのイベント機能を使いSNOWBANKで献血を知った方がその後継続して献血してくれているかなどの調査も行っていきたい。

### 5. 事業成果物

#### (1) 助成契約書記載の成果物名称

報告書を作成しホームページや支援者への郵送物などで公開

#### (2) 事業完了時の成果物名称

東京雪祭2023報告書  
THE BANK2024報告書  
SNOWBANK献血プロジェクト23年度報告書



#### (3) 未作成となった要因

#### (4) 成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください⇒ [https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra\\_gui\\_01-1.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf) (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

<https://fields.canpan.info/report/detail/31357>

## 2023年度 収支計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

契約書（記3）に記載の補助率	80
----------------	----

(単位：%)

団体名：一般社団法人SNOWBANK

事業名：若年層が献血・骨髄バンクドナー登録の正しい知識を

(収入の部)

(単位：円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B) 自動計算	受入済額 (C)	未収額	助成金返還見込額
				自動計算 (A-C)	自動計算 (A-B)
① 日本財団助成金収入	16,300,000	16,300,000	16,300,000	0	0
② 自己負担	7,330,000	9,187,405	9,187,405		
③ 収入合計	23,630,000	25,487,405	25,487,405	0	0

(支出の部)

(単位：円)

費目	日本財団承認済の予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額	補足説明、備考
				自動計算 (y-z)	
臨時雇用費	100,000	81,260	81,260		
諸謝金費	2,500,000	2,644,785	2,644,785		
旅費交通費	720,000	835,216	835,216		
製作費	1,065,000	1,011,267	1,011,267		
委託費	11,250,000	12,070,572	12,070,572		
会場費	1,365,000	1,491,610	1,491,610		
消耗什器備品費	695,000	344,034	344,034		
広告宣伝費	600,000	600,000	600,000		
通信運搬費	38,400	249,384	249,384		
雑費	250,000	759,277	759,277		
間接経費	5,040,000	5,400,000	5,400,000		
支出合計(端数調整前)	23,623,400				
端数調整欄	6,600				
④ 支出合計(端数調整後)	23,630,000	25,487,405	25,487,405	0	

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。

※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。

## 【返還見込額の発生有無】

返還見込額の発生
無し

※「有り」の場合は予算額に対し決算額が下回っているため、返還金が発生する可能性があります。

## 【一致確認】 ※NGが出た際は、入力の間違っているかもしれませんので該当項目を再確認してください。

予算額(A)③収入合計=予算額(x)④支出合計	OK
決算額(B)③収入合計=決算額(y)④支出合計	OK
受入済額(C)③収入合計-助成金返還見込額=支出済額(z)+未払額④支出合計	OK

## セルフチェック項目 (プルダウンで選択)

- ① (収入の部)の予算額(A)の①日本財団助成金収入と③収入合計は、契約書に記載されている助成金額及び事業費総額と一致しているか。
- ② (収入の部)の予算額(A)③収入合計と(支出の部)の日本財団承認済の予算額(x)④支出合計が一致しているか。
- ③【一致確認】欄は全て「OK」であるか。